

静岡産業技術専門学校自己点検評価報告書について

平成 26 年（2014 年）4 月、文部科学大臣認定による職業実践専門課程制度が始まり学校自己点検評価及び企業関係者を含む学外委員による学校関係者評価を実施しその結果を原則として公開サイトで公開することが認定要件となりました。

本校は現状として、設置 9 学科の内 完成年度を迎えている全 8 学科が職業実践専門課程の認定を受けています。令和元年（2019 年）9 月には高等教育修学支援新制度の確認校として認定され、さらに詳細な情報公開を開始しました。学校自己点検評価・関係者評価は毎年度実施し、結果を本校公式サイトにて公開しています。

令和 7 年度（2025 年度）実施にあたって

これまで確立してきた企業との組織的な連携体制のもとに、より実践的な職業教育を担う専門学校として、学校自己点検評価・関係者評価に毎年度取り組み、広くご意見をいただきながら、さらなる教育の質の向上、情報提供に取り組んでまいります。

評価の基準

本報告書の学校自己点検評価は、平成 25 年（2013 年）3 月に文部科学省より発表された「専修学校における学校評価ガイドライン」をふまえて全 67 項目について実施しました。

評価の基準日

評価対象：令和 7 年度 作成日：令和 8 年（2026 年）3 月 20 日

評価報告書の構成

本報告書の各点検項目（67 項目）は、下記のような要素で構成されています。

1. 教育理念・教育目標
2. 令和 7 年に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
3. 評価項目の達成及び取り組み状況

学校評価委員の学内委員

委員長	松本 文晴	（学校長）
統括責任者	前島 理恵子	（教務課長 医療事務科 学科長）
委員	夏目 はる子	（総務課 課長代理）
	澤入 明子	（就職支援課 課長）
	望月 操	（入試広報課 課長）
	塩崎 雅基	（教務課長補佐 みらい情報科・CG 技術科 学科長）
	河内 嘉美	（デジタル経営学科 学科長）
	町野 教和	（コンピュータ科 学科長）
	岡村 綾子	（ゲームクリエイト科 学科長）
	榛葉 幸子	（こども保育科 学科長）
	仙波 久実	（CADデザイン科 学科長）
	石崎 哲也	（建築科 学科長）

1. 教育理念・教育目標

教育理念

社会人として自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

教育目標

学校教育法に基づき、工業・商業分野における専門実務教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、教育分野における知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与することを目標とする。

教育ミッション

「先端技術教育」×「人間教育」 2つを柱に職業人を育成

～ Passion × Direction × Time ～

2. 令和7年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

経営重点施策（骨子）

（1）教育の価値を高める

ステークホルダーからの評価を高め、産官学連携・高校連携・地域貢献の拡充、教育目標の達成、就職実績の向上、学生満足度の向上、休退学者の抑制などに重点を置く。

<キーワード>

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ○地域貢献活動、地域連携活動の拡充 | ○産業界や行政機関、教育機関との連携強化 |
| ○ステークホルダーに評価される教育目標の達成 | ○専門関連職内定率 90%以上を達成 |
| ○学生満足度の向上 | ○休退学者率 4%以内の達成 |
| ○企業や卒業生評価を教育に反映 | |

（2）2026 年度の入学生募集目標を必達する

入学者数 240 名以上を確保することを目標とし、引き続き募集活動の強化、進路決定の早期化対応、オープンキャンパスの改善、高校との連携強化などに取り組む。

<キーワード>

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ○高校 1・2 年生向け募集活動強化 | ○学校の強みの明確化、学科毎の募集戦略細分化 |
| ○募集対象者への個別アプローチの迅速化と最適化 | ○オープンキャンパスの改善 |
| ○法人内高校や法人外高校との連携拡大 | ○留学生の受け入れ推進 |
| ○静日との連携強化 | |

（3）コストパフォーマンスとタイムパフォーマンスの向上

費用対効果と時間対効果を意識し、業務生産性・効率性を高めるために、支出の適正化、業務効率化、時間外業務の削減などを推進する。

<キーワード>

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ○費用対効果の伴わない支出の削減 | ○タイムパフォーマンスの低い業務の改善・廃止 |
| ○将来を見据えた価値ある先行投資 | ○業務効率化と時間外業務の削減 |
| ○教育活動や広報活動の費用対効果検証 | ○校務 DX 推進 |
| ○教職員の専門性を活かした役割分担 | ○会議時間の削減と効率化 |

（4）ワークエンゲージメントの向上

人的リソースの最適化と組織風土の活性化を目指し、学内コミュニケーションの活性化、目標やビジョンの共有、教職員の負担軽減、スキルアップ支援などに取り組む。

<キーワード>

- 学校 MVV の明確化と共有
- 教職員の負担軽減
- 学内コミュニケーション活性化
- 教職員相互の仕事やミッションの「見える化」「見せる化」推進
- 教職員のスキルアップ支援

3. 活動・運営に関する目標や計画の項目

<教務>

- ・行政機関、関連企業、高校や小中学校、近隣住民など、地域に必要とされる教育機関としての地位を強固にするための活動を拡充する。
- ・学科ごとにステークホルダーからの要望を正確に把握し、その要望に沿った教育目標の達成に向けて取り組む
- ・企業アンケートと卒業生アンケートを実施し、そこから得られる学校評価や求められる人材像を把握することで、教育への落とし込みと離職率の低下につなげる
- ・教育評価や学校環境評価を高めることで、退学率4%以内を達成させる

<就職支援>

- ・就職内定率100%、関連職内定率95%以上の達成
- ・就活の早期化に伴い、引き続き各就活イベントの開催時期や内容を見直し、学生の動きに合わせたサポートを行う
- ・企業とのつながりの強化
目標企業、重点企業への訪問回数を増やし、関係性を強化する（可能な限り教員も同行）
企業アンケートを実施し卒業生の様子や、教育内容へのフィードバックを行う
- ・学生指導の強化
SANGI SPI の活用方法の見直し（利用した学生、先生の感想聞き取り等）
新入生オリエンテーションでの就職への意識づけ（特に2年制学科）
インターンシップの情報提供と参加奨励、実績管理

<広報活動>

- ・目標入学者数240名以上の確保
- ・参加者が入学したくなるように、オープンキャンパス全般について工夫改善する
- ・高校1、2年生向けの募集活動を強化する
- ・法人内高校からの進学者増大に向けた施策の強化とともに、法人外高校との連携も拡大し、安定した入学者数確保に向けた土台を強化する

<総務>

- ・来訪者や学生に対する対応、電話応対等を通じて、学校印象度の向上を図る
- ・学生、教職員、来訪者が満足する安全で清潔な学校環境を提供できるよう修繕、整備、点検を行う
- ・確認を怠らない正確な事務処理をする
- ・他部署と連携し、今ある危機管理マニュアルを充実させる

4. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

（１）教育理念・目標

自己点検評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	3
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・父母等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己点検評価 平均		3.8

成果と課題

- ・学生に教育理念・目標を周知徹底するため、当該情報を掲載した学生便覧を配布している。
- ・入学時の新入生オリエンテーションでは、教務ガイダンスとして学則・教務規定などを教務課長から伝えている。
- ・クラス毎のガイダンスでは、教育課程・学生生活・ディプロマポリシーについて説明している。
- ・職業教育の特色は学校案内パンフレットに掲載されている。また、オープンキャンパスでは校長から、後援会総会では教務課長から説明した。
- ・学校の将来構想については、法人内専門学校5校の第4次中期計画として計画され、実行されている。
- ・学校及び学科ごとの育成人材像については、オープンキャンパス、学校説明会等で説明を実施している。
父母等に対しては、後援会総会・授業見学会等を通じて説明を実施した。
- ・授業見学会は、1年生を対象に対面で実施した。コロナ禍明け2023年度から継続して対面開催を行っているため、これまでのような2年生以上の実施の問い合わせはなかった。
- ・各学科の教育目標、育成人材像の業界ニーズを把握するため、教育課程編成委員会を年2回開催し外部意見の反映に努めている。

今後の改善方策

- ・今後も継続して紙媒体、ホームページ掲載などを通して、学校からの情報発信を継続実施する。
- ・教育課程・学生生活について十分な説明ができていますが、ディプロマポリシーに関しては、教員の意識と学生への周知が十分ではない可能性がある。改めて、周知徹底する。
- ・入学前のオープンキャンパス・学校説明会の開催方法については、Web・SNSの活用方法など周知方法を検討している。

(2) 教育活動

自己点検評価欄

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	3
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
学校自己点検評価 平均		3.8

成果と課題

- ・入学時と前期後期の2回に分けて、新入生アンケート・授業アンケート・自己発見検査（学生のタイプなどがわかる）スクールライフアンケート（学校の充実度・学生の不安などを調査）の調査を継続している。
- ・授業アンケートの「シラバス」については、数年注意してきている。「説明があった」「覚えていない」「説明がなかった」という項目に対し、「覚えていない」と答える割合は減りつつある。意識的に説明をしているが、説明の時期や方法をさらに改める必要がある。
- ・授業アンケートのフィードバックが、遅くなってしまったが、学科長からフィードバックを行った。
- ・すべての学科で該当する関連分野の企業・団体との連携を深め、教育課程編成委員会を開催し外部委員からの意見やアイデア、最新の業界動向等を教育カリキュラムやキャリア教育の改善に活かす取り組みを実施している。
- ・全ての教員が「関連分野における先端的な知識・技能等を修得」「教員の指導力育成」などの資質向上を目的とした研修に積極的に参加した。
- ・各科授業内容の理解度については、課題・小テスト・ミニツツペーパーなど確認をし、担当教員が状況を把握している。状況により、補講や課題を行っている。
- ・2026年度から定期的な受審が努力義務化されている第三者評価について、職業実践専門課程認定校として、調査し、専門学校グループで実施に備えている。

今後の改善方策

- ・授業アンケートを適切に活用できるよう実施及びフィードバック時期を柔軟に実施する。
- ・公開情報としての科目シラバスに基づいて、成績評価や授業評価の精度を向上させる。

(3) 教育成果

自己点検評価欄

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	4
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
学校自己点検評価 平均		3.8

成果と課題

- ・関連職内定率（履修した分野に関わる職種等への内定割合）を向上させることに重点を置いた学科の運営や就職指導を行い、学校全体として95.7%の関連職内定率を達成することができた。
- ・資格取得に関しては、例年の実績相当の資格取得実績をあげることができた。
- ・退学率は1.97%（目標4%以内）となり、目標を達成することができた。
- ・学校関係者評価委員会にて、「卒業生の社会的な活躍、就職後の定着状況を調査するなど把握のための施策を講じる。」としたが、目新しい施策は講じることが出来なかった。
- ・同窓会サイトにアドレス登録した2025年3月の卒業生および2024年3月卒業生の就職先企業に向けて、在籍状況およびその評価についてのアンケートを実施し、学校全体で共有している。

今後の改善方策

- ・就職活動の早期化に伴い、社会の流れに合った就職指導を学科系統ごとに検討していく。
- ・卒業生や企業へのアンケートを引き続き行い、卒業生の社会的な活躍および評価に関する情報収集を行う。

(4) 学生支援

自己点検評価欄

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
4-5	父母等と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
学校自己点検評価 平均		3.8

成果と課題

- ・就職支援体制は、『就活ゼミ』を導入しており、学生1人に対して就職担当、担任、就職ゼミ担当の3方向からサポートしている。このことにより就職活動に必要な基本的就職活動リテラシーの指導・サポート体制と、専門職内定率を向上させるための学科・クラス担当からの学生への情報提供・サポート体制を明確化し、内定率、専門職内定率ともに高いレベルでの維持に成功している。
- ・学生相談窓口として、クラス担任による通常の対応と、スクールカウンセラーによる相談を毎週1回開設（月曜日）している。学校にて緊急の事案と判断した場合は、定例のカウンセリング以外にも心配な学生が居る場合には、カウンセラーを手配し実施している。
- ・学生・父母等の経済的負担を軽減する措置として、高等教育の修学支援新制度に則り対象校の手続きを行っている。総務部門に学生支援機構の奨学金制度や官民の教育ローン制度等の学生・父母等に対するサポート職員を配置し、随時相談受付を行っている。
- ・父母等会組織である後援会が組織されており、学校に事務局を設置している。また学生の状況については、必要に応じて父母等との情報共有に努めている。
- ・卒業生を会員とした同窓会が組織され、学校に事務局を設置している。離職してしまう卒業生については、就職相談室にて相談及び既卒者向けの採用情報などを提供している。
- ・高校との連携授業を6校と連携している。
- ・就職担当を専任で配置し、求人開拓を含む就職支援統括を学校として行っている。
- ・課外授業としての学校行事・イベント（春遠足：各科ごと・11月：スポーツフェスティバル・秋遠足：ディズニースポーツ）は、安全に開催できた。このほか、各科の実習・研修などは概ね安全に実施できた。
- ・課外活動に対しては、適切な保険などに加入し安全に実施している。
- ・実習室のパソコンおよび教室の環境整備については、社会のニーズ・教育の有効性を踏まえて計画的に整備している。

(5) 教育環境

自己点検評価欄

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	3
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
学校自己点検評価 平均		3.8

成果と課題

- ・講義室及び実習室は、実習に必要な室数、面積、パソコン台数や実習機器が確保され、ソフトウェアについても定期的にバージョンアップが行われている。
- ・毎年計画的に実習室の機器などの入替・メンテナンスを行っている。前年度に引き続き、各普通教室のプロジェクトを天吊りに変更し、学生使用可能なスペースを広げた。
- ・放課後等実習室などの貸し出しに関しては適切に行っている。
- ・オンライン面接・説明会用スペース テレブースは、予約制により順調に貸し出しを行っている。
- ・図書については各科で必要図書を購入して教室や実習室に配備し、学生が適宜閲覧できるよう整備している。
- ・各講義室及び実習室における地震、火災等における避難経路は設定されている。新入生に関しては、4月中旬に避難経路の確認を行っている。静岡日本語学院との避難経路の確認に努めた。
- ・本校全体での防災訓練は、9月に実施した。
- ・実習・インターンシップについては、各科事前指導を実施している。
- ・研修旅行については、事前に2回説明会を実施し安全な実施に努めている。

今後の改善方策

- ・校舎老朽化に伴い、大雨時雨漏りが多数発生し授業に支障をきたしたため、早急な対応が必要。次年度、改修工事を予定している。
- ・防災訓練は、新入生向けに入学当初行っているが、全体での訓練が大事である。9月は酷暑でもあるため、全体での実施時期を変更したい。

(6) 学生の募集と受け入れ

自己点検評価欄

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己点検評価 平均		4.0
<u>成果と課題</u> ・2025年度の募集活動の結果、2026年度の入学者は、入学定員210名に対し293名となった。 ・入学案内について、本校の基本教育をはじめカリキュラムや目標資格等を明記できている。 ・募集要項について、入試方法や学費等他の専門学校と比較しても内容に不足等なく適切である。 ・学生募集活動にあたっては、虚偽・過剰なことの無いよう事実に基づいた情報提供と対応を実施している。 また、オープンキャンパス等のイベントについても状況に応じて運営方法を改良し対応できている。 ・教育成果についても、日々正確な情報の蓄積に努め、誤った情報が伝達されないよう厳正に対応している。 ・学納金については、日々の教育活動を維持するために必要な経費が確保できるものとなっており、他の専門学校各校と比較しても妥当な金額に設定されている。		
<u>今後の改善方策</u> ・学校全体の定員充足と、全学科の定員充足を引き続き目指していく。 ・今年度定員にあと一步届かなかった2学科についてそれぞれ募集活動上の対策を講じ、年度の定員充足を目指す。 ・2024年4月より開設した「デジタル経営学科」について、認知度向上に努めるとともに大学併願者の受験も視野に入れた募集活動を引き続き展開する。		

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

自己点検評価欄

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己点検評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己点検評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
学校自己点検評価 平均		4.0

成果と課題

- ・学校法人全体を統括する理事会は、年4回、6月、9月、12月、3月に定期的実施され、評議員会は年2回、6月、3月に定期的実施され、議事録は適切に作成管理されている。
- ・就業規則などの諸規程は整備されている。全ての規程集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。
- ・組織間の連携は、校長ミーティング及び4つの分科会（進路、教育、募集、総務）やワーキンググループ、中期計画策定委員会を中心に十分な連絡会議が持たれている。
- ・避難経路確認は、入学直後に行っている。また、防災訓練を9月に実施した。
- ・セクシャルハラスメントのみではなく広くハラスメント全般に対応するようハラスメント委員会を設け、委員名や連絡方法、またハラスメントへの対応等を明記した文書を校舎内廊下に掲示している。
- ・教職員に対し、2月にハラスメント研修を実施した。
- ・情報セキュリティ委員を選任し、情報の持ち出しに対しては管理記録簿により管理している。
- ・学園の財務情報はホームページ上に公開され常時閲覧可能である。
- ・公開情報として、学校情報・カリキュラムポリシー・高等教育の修学支援制度を適切な時期にホームページにて公開している。

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3
8-5	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校自己点検評価 平均		3.6

成果と課題

- ・学校施設を活用した、高校生の職業体験授業や技術体験授業、などを随時受託している。
- ・留学生の受入体制について留学生サポート教員を選任し、クラス担当とともに留学生のケアに努めているが、欠席が非常に多く1名の退学者を出してしまった。
- ・地域に対して、積極的な講座の公開は行えていない。
- ・学校外の施設および学科に関係する団体へのイベントの公開を試みた。
例えば、複数学科にて卒業研究発表会を M20 ビルにて実施し、内定先企業に公開した。医療事務科では、卒業研究発表会を父母等にも公開した。こども保育科では、卒業研究発表会や他イベントに近隣園の園児を招待した。
- ・静岡県職業教育振興会主催の子ども向け仕事体験講座に医療事務科が昨年に引き続き参加した。また法人内でも同様イベントを実施し、建築科及びデジタル経営学科で参加した。
- ・地域貢献として、IT パスポート試験対策講座を県内大学生・一般に向けて実施した。
- ・学校が窓口となり複数のボランティア活動を奨励・支援している。
- ・2025 年度は近隣清掃活動を全クラスで行った。